



会員のひろば



短歌

撫子の咲き乱れたる園の庭
細き茎持て支柱を立てる

本田 征子

明け方の夢に出て来し亡き友の
変わらぬやさしき笑顔なつかし

小西 和子

投稿川柳

反省も三日もすれば忘れちゃう
欠けていたパズルのピース今埋まる

おたかちゃん

星空をテーブルにして夢を編む
枯木でもかけがえない若芽出す

浜 正吉

投稿五行歌

妻は母のごとき
食事睡眠健康と
気づかいに感謝
これからは
自分のこともね

ひろタン

盆踊り
皆で交流たのしいな
老若男女みな笑顔
平和を願うこの先も
今を戦前にさせぬよう

昔の乙女

《米寿を迎えてシーズネットを振り返る》

2001年シーズネットへ入会。「高齢者の住まい研究会」が立ち上がり、専門家の中に会員の一人として参加。未知の所から学び「チャレンジ」し、大勢の方々の知恵と力を頂き、高齢者住宅を訪問し「情報誌作成」、「相談の場所創り」、「相談員を5年半」行い、多種の持病、障がい者、年金の格差、夫婦、親子間の問題などが見えてきて、知識不足を強く感じ現場を離れ、高齢者の住まいの従事者の方々の勉強会に参加し多くを学び、「生活相談員」育成講座では高齢者の声を伝える立場を、ちえりあの「ご近所先生」講座を（3か月コース）2回経験。シーズネットの中で「これからの暮らしのアドバイス」として繋げることができました。熊本県から「相談の場所作り」のセミナー依頼があり行う。一方北海道新聞の生活欄に「高齢者の住まい」のコラムを週1、半年間25回連載。マスコミからの取材も多く、新聞、テレビに取り上げられ、道新カルチャーの講師、各高齢者大学、各団体（振興局、社協、など）の依頼を受けセミナーを続ける。

高齢者住宅財団の「サ高住推進委員」を受け北海道の現状も伝える機会を得、シーズネットは「高齢者の住まい」の取り組みは全国の中でも先駆者であることを改めて知ることができ、社会参加の喜びを感じる。

一方、社会福祉法人の「評議員」を受け、その中で（苦情・事故・ハラスメントなど）の外部委員を受け、現場の実態と苦勞を知る機会も得ることができました。

「知恵袋講座」をはじめ「住まいの勉強会」を行う中、両膝の人工関節手術を受け、介護保険を利用（申請し認定を受け）、高齢期身体のバランスをとる筋力が大切（転倒防止）と教えられ、週2回リハビリに通いながら、シーズネット仲間との交流2つのサークルに、四季のお花の追っかけなど、先の道は感謝忘れず、助けられながら楽しみ探しの旅を続けたいと思っています。

西原 桂子